

学会だより

◇平成 24 年度第 2 回常任幹事会議事録

開催日時：平成 24 年 6 月 30 日（土）（14：00～17：30）

開催場所：東京大学農学部

出席者：奥野員敏，吉村淳，熊丸敏博，福岡修一，横井修司，大坪憲弘，岩田佳洋，宅見薫雄，笹沼恒男，佐藤和広，一谷勝之，奥本裕，加藤鎌司，友岡憲彦，片山健二，北野英己 計 16 名

委任状：阿部純，有村慎一，犬飼義明 計 3 名 合計 19 名

各常任幹事からの経過報告後，名誉会員の推戴について提案がなされ，了承された。優秀発表賞の対象者の文言の修正が提案され，了承された。編集委員の交代，和文誌特集記事の扱い，男女共同参画推進委員会から幹事・座長などへの女性の登用促進が提案され，了承された。

◇ カルタヘナ法及び名古屋議定書説明会の報告

先月 11 日開催の文部科学省主催「カルタヘナ法及び名古屋議定書説明会」に，当学会 LMO 連絡会（渡邊和男委員長）の大坪委員と小松委員が参加し，委員長始め各委員のご協力による報告書がまとまりました。会員の皆様の研究活動に関わる重要な内容を含んでおります。基本的な語句の説明と，具体的な注意点を中心に下記にわかりやすくまとめてありますので，是非ご一読ください。

去る平成 24 年 6 月 11 日，文部科学省において「カルタヘナ法及び名古屋議定書に関する説明会」が開催されました。特に後半の名古屋議定書に関連した国内の動向と，当面研究者が留意すべき事項についていくつかの重要な説明がありましたので，要点をかいつまんでお知らせします。

■名古屋議定書 平成 22 年 10 月の生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）で採択された，遺伝資源の適切な利用と関係国の利益配分について規定した議定書。

■生物多様性条約 生物多様性の保全，生物資源の持続可能な利用，遺伝資源の利用に伴う利益配分（Access and Benefit Sharing: ABS），これら 3 つが条約の目的。特に 3 番の ABS に関する取決めを具体化したものが「名古屋議定書」。カルタヘナバイオセーフティー議定書は生物多様性条約の別の議定書。

■ABS の基本的な考え方

- ・アクセスは材料の入手だけではなく，現地のフィールド調査等にも遡及するため注意。
- ・アクセスすることだけでも利益配分の約束が必要なことが多い。
- ・遺伝資源が利益に結びついた際の利益を関係国の管理のもとに公平かつ衡平に配分する。

・事前同意（PIC: Prior Informed Consent）と相互合意条件（MAT: Mutually Agreed Terms）を相手国の national competent authority と交わす。

・相手が国だけとは限らない。独立州などとの取り決めも場合によって必要。

・材料の譲渡には，材料譲渡契約書を別途かわす。

・もらうだけではなく，提供する側としての立場も考える必要がある。

■名古屋議定書の主要規定

原文（利用国の立場を中心に説明）<http://www.cbd.int/abs/text/>

（財）バイオインダストリー協会が名古屋議定書の対訳をホームページで公開中。<http://www.mabs.jp/archives/nagoya/index.html>

■大学・研究機関等において留意すべき点 国内法等の整備を進めている国が増えているので，関係国，特に遺伝資源提供国のルールを事前に確認することが必要。契約を行う場合は細心の注意を払う。留学生等が持ち込む遺伝資源についても遺漏のないように確認対応。

■当面の対応 ポン・ガイドラインに従い，遺伝資源提供国の国内法令等を把握し遵守する。作物の場合は，FAO の国際食糧農業植物遺伝資源条約（ITPGA）で規定される標準試料移転同意書（SMTA）についても考慮する必要がある。

<ftp://ftp.fao.org/ag/agp/planttreaty/agreements/smta/SMTAe.pdf>

■大学等における海外の遺伝資源の取扱いの相談（別途資料・説明あり）

・国立遺伝学研究所 知的財産室 ABS 窓口 [http:// 遺伝資源.jp/](http://遺伝資源.jp/) 出張セミナーを開催（無料）。但し大学のみ対象。

・バイオインダストリー協会も対応。

■海外遺伝資源入手の注意点

・国内法が整備されている提供国から，政府の許可（PIC）を取る。

・利益配分の相互同意（MTA）が必要，また特許申請時にも適切な入手かどうか再確認が必要。

■誤解されやすい点

・研究だからといって対象外とはならない。

・名古屋で初めて決まったわけではない（ボン・ガイドラインは 2002 年から）基本方針は CBD 発効（1993）以来ある。

■想定事例

・途上国の市場でお金を払って購入した薬草を持ち帰り，成分抽出・同定，特許取得。

・研究者個人で契約をしてしまう（大学等の担当部局に相談することが必要）。

・留学生が母国の遺伝資源をボスに了解を得て持ってきた（政府の許可が必要）。

■懸念事項

・啓発活動の不足で研究者が海外から遺伝資源を持ち帰ってしまう。

・論文や特許など大学の研究成果に関するクレームが提供国側から来る

■啓発活動と意見聞き取りの必要性 ※ライフ課担当者による補足説明

・現在の締約国5カ国 ガボン, ヨルダン, セイシェル, メキシコ, ルワンダ, 50番目が批准して90日で発効。

・国内の進捗状況

立法上, 行政上, 政策上の措置について関係省庁で検討中。

◇ 地域談話会だより

〈中部地区〉

第19回育種学会中部地区談話会が, 2011年12月10日(土) 10:30-17:30に三重大学・生物資源学部にて開催されました。参加者は84名, 開催内容は以下のとおりです。

(1) 特別講演

S-1. 「イネいもち病菌の菌糸伸長を抑制する圃場抵抗性様遺伝子の単離と機能解明」

小林一成氏 (三重大学大学院地域イノベーション学研究所/生命科学研究支援センター)

S-2. 「イチゴ新品種「かおり野」と次世代の種子繁殖型品種」

森利樹氏 (三重県農業研究所園芸研究課)

(2) 一般講演

O-1. イネ reduced adh activity (rad) 変異体における冠水発芽時の嫌気代謝の変化。○高橋宏和¹・松村英生²・堤伸浩³・中園幹生¹ (1. 名大院生命農学, 2. 信州大ヒト環境科学研究支援センター, 3. 東大院農学生命科学)

O-2. イネの根におけるスベリン生合成遺伝子群の嫌気応答。○渡邊宏太郎¹・西内俊策²・塩野克宏³・中園幹生² (1. 名大農, 2. 名大院生命農学, 3. 福井県大生物資源)

O-3. イネの穂型制御に関わる遺伝子が肥料要素欠乏条件下で収量関連形質に与える効果。○中野利哉¹・本庄弘樹²・坂紀邦²・尾賀俊哉²・池田真由子³・保浦徳昇³・北野英己³ (1. 名大院生命農学, 2. 愛知県農試, 3. 名大生物機能開発利用研究センター)

O-4. Identification and phenotypic analysis of gibberellin-related mutants of sweet sorghum (*Sorghum bicolor* L. Moench). ○Reynante L. Ordonio¹, Asako Hatakeyama¹, Kozue Ohmae¹, Shigemitsu Kasuga², Yusuke Ito^{1,3}, Takuya Yamamura³, Tsuyoshi Tokunaga³, Hidemi Kitano¹, Makoto Matsuoka¹, Takashi Sazuka¹ (1. Biosci. Biotech. Ctr., Nagoya Univ., 2. Edu. Res. Ctr. of Alp. Field Sci., Fac. of Agr. Shinshu Univ., 3. Earth Note Co. Ltd.)

O-5. Lycaste×Cymbidium の属間交雑で親和性を保有する交雑組合せにおける両親の系譜の特徴。○塩田浩喜¹・岡

田惇²・岡山倫子²・安保幹太³・蟹江正文⁴・遊川知久⁵・市橋正一²・加藤淳太郎² (1. 愛知教育大院理科教育, 2. 愛知教育大生物, 3. アボウオーキッド, 4. 東海市農業センター, 5. 国立科博植物)

O-6. *Zygonisia Murasakikomachi* と *Cymbidium* の属間交雑で高頻度に見出された単為発生様のDNA含量を保有する個体の出現。○岡山倫子¹・塩田浩喜²・岡田惇¹・遊川知久³・市橋正一¹・加藤淳太郎¹ (1. 愛知教育大生物, 2. 愛知教育大院理科教育, 3. 国立科博植物)

O-7. DNA含量および形態的特徴にもとづく野生イネ系統の再評価。○武田泰実¹・池田真由子²・山口秀和²・加藤淳太郎¹・山木辰一郎³・野々村賢一^{3,4}・倉田のり^{3,4}・北野英己² (1. 愛知教育大生物, 2. 名大生物機能開発利用研究センター, 3. 遺伝研, 4. 総研大生命科学)

O-8. オオムギ野生種における雌蕊側S因子候補HPS10のin vitro花粉発芽阻害効果の検定。○橋本翔・松田彩乃・掛田克行 (三重大生物資源)

O-9. 冷涼な中山間地域の栽培に適した *Capsicum pubescens* 多収系統の選抜。○野中大樹・松島憲一・南峰夫・根本和洋 (信州大院農)

O-10. 難脱粒性ソバ系統「グリーンフラワー」における低結実率について。○中谷達明¹・丸山秀幸²・林憲弘¹・岡本潔²・南峰夫¹・松島憲一¹・根本和洋¹ (1. 信州大院農, 2. 長野県野菜花き試験場)

O-11. ダイズの胚軸における二次通気組織形成に関する遺伝子の探索。○柳川麻子¹・高橋宏和²・平賀勲³・島村聡⁴・中園幹生² (1. 名大農, 2. 名大院生命農学, 3. 作物研, 4. 東北農研)

O-12. イネ雄性生殖器官発達過程におけるsmall RNAの網羅的解析。○藤岡智明¹・濱田和輝²・本郷耕平²・矢野健太郎²・諏訪部圭太¹・鈴木剛³・渡辺正夫⁴ (1. 三重大生物資源, 2. 明治大農, 3. 大阪教育大教養, 4. 東北大院生命科学)

(3) コーヒーアワー・研究紹介

中部地区育種学分野の若手研究者の交流を目的として, 昨年に引き続き, ポスター発表形式の「コーヒーアワー・研究紹介」を開催しました。19名の発表申し込みがあり, 自由度の高い形での話題提供と熱心な討論が行われました。

〈近畿地区〉

【近畿作物・育種研究会 第173回例会】

2012年7月14日(土)に第173回例会を近畿大学農学部で開催しました。71名の参加者があり, 滋賀県立大学長谷川博先生の特別講演の他に, 8題の一般講演があり, 活発な質疑応答がありました。

一般講演

1. 丹波黒大豆への亜リン酸肥料施用の効果

○來田康男¹・前川和正¹・澤田富雄¹・吉川玖仁子²・樋本英司³・松波広幸⁴・森本良太⁵・佐藤毅⁶ (1. 兵庫県

立農林水産技術総合センター, 2. 兵庫県丹波農業改良普及センター, 3. 兵庫県篠山農業改良普及センター, 4. 丹波ささやま農業協同組合, 5. 篠山市, 6. 大塚アグリテック (株))

2. プラントキャノピーアナライザー (LAI2000) の測定精度の検証

○廣岡義博¹・本間香貴¹・白岩立彦¹・栗田光雄^{1,2}・佐藤博一¹・神林満男¹・原律子¹・岩本啓己¹ (1. 京大院農, 2. NPO 無肥研)

3. 無施肥栽培継続年数の異なる水田における雑草の発生および水稲の生育・収量

○丸田信宏¹・竹内史郎^{1,2}・芦田馨²・栗田光雄¹・白岩立彦³ (1. 無施肥無農薬栽培調査研究会, 2. 近畿大学, 3. 京都大学)

4. イネユビキチン様タンパク質 RURM1 の不活性化が細胞分裂におよぼす効果の解析

○築山拓司¹・那須田周平¹・堀端章²・角谷磨美¹・中崎鉄也¹・寺石政義¹・谷坂隆俊¹・奥本裕¹ (1. 京大院農, 2. 近大生物理工)

5. イネにおけるコドン特異的タンパク質翻訳効率定量システムの構築

○濱本有希¹・築山拓司¹・清水頭史²・寺石政義¹・谷坂隆俊¹・奥本裕¹ (1. 京大院農, 2. 滋賀県立大)

6. 登熟良好な新規極穂重型イネ遺伝子型を開発する試み

○加藤恒雄 (近畿大学生物理工学部)

7. ゴマ種子初期成熟過程で発現する遺伝子の網羅的機能解析

○岸川彰宏・田中宏明・種坂英次・吉田元信 (近畿大院農)

8. ゴマ *Sesamum indicum* とその祖先野生種 *S. mulayanum* の交配後代における種子発芽特性の遺伝様式

○種坂英次¹・淡路恭兵¹・田中香名¹・山本将之²・増田恭次郎²・山田恭司²・吉田元信¹ (1. 近畿大学農学部, 2. 富山大学大学院理学研究科)

特別講演「印象に残る論文：研究生生活を振り返って」

◇ 研究助成等の公募案内

〈公益財団法人日本科学協会平成 25 年度研究 笹川科学助成の課題募集のご案内〉

平成 25 年度笹川科学研究助成につきましては、例年通りに募集を行うこととなりました。なお、「実践研究部門」につきましては、募集内容・期間等が昨年度と一部変更になっておりますので、募集要項等をよくお読みの上、ご申請下さい。

◆詳細は、本会 Web サイトをご覧ください。 <http://www.jss.or.jp/sasagawa/index.html>

《募集告知ポスター》下記 URL よりダウンロードして下さい。 <http://www.jss.or.jp/sasagawa/poster/poster.html>

《募集期間》○学術研究部門：平成 24 年 10 月 1 日～平成 24 年 10 月 15 日 ○実践研究部門：平成 24 年 11 月 1 日

～平成 24 年 11 月 15 日

《お問い合わせ先》公益財団法人日本科学協会 笹川科学研究助成係 〒107-0052 東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 5F Tel. 03-6229-5365 Fax. 03-6229-5369

E-mail: josei@jss.or.jp URL: <http://www.jss.or.jp>

〈公益財団法人不二たん白質研究振興財団平成 25 年度研究助成の課題募集のご案内〉

I. 研究者の範囲 大学等およびこれに準ずる研究機関に所属する研究者

II. 特定研究 (共同研究) 1. 特定研究の対象分野 人における健康の維持や病気の予防等に期待される大豆たん白質および関連成分の有用性に関する領域の共同研究を対象とします。 2. 研究助成額および研究期間 1) 助成額は単年度で 500 万円以下を見当 (採択予定件数 1 件)。 2) 研究期間は平成 25 年 4 月より原則として 3 年。

III. 一般研究 1. 研究領域と分野 1) 研究領域は大豆たん白質および関連成分に関する研究を対象とします。 2) 研究分野は イ. 食品科学・食品工学・調理科学 ロ. 栄養科学 ハ. 健康・臨床栄養に関する科学 3) 萌芽的研究については、選考の際配慮します。 2. 研究助成額および研究期間 1) 助成額は 1 件 100 万円見当 (採択予定件数 20 件) 2) 研究期間は原則として平成 25 年 4 月より 1 年。ただし連続して助成することもあり。

IV. 若手研究者枠 1. 研究領域と分野は一般研究と同じ。 2. 応募資格 応募申請時に満 35 歳以下であること。 3. 研究助成額および研究期間 1) 助成額は 1 件 50 万円見当 (採択予定件数 10 件) 2) 研究期間は原則として平成 25 年 4 月より 1 年。ただし連続して助成することもあり。

V. 応募方法 1. 平成 24 年 9 月上旬より、<http://www.fujioil.co.jp/daizu/> へ助成研究応募要綱等を掲載いたします。 2. 応募用紙をダウンロードいただき必要事項をご記入の上、事務局あてご提出下さい。 3. 応募受付は平成 24 年 10 月 1 日～11 月 30 日。 4. 提出された応募書類により、学識経験者からなる選考委員会による選考を経て採否を決めます。

VI. 問合せ・申込先 〒598-8540 大阪府泉佐野市住吉町 1 番地 不二製油 (株) 内 (公財) 不二たん白質研究振興財団 事務局 上田, 高松 Tel. 072-463-1764 / Fax. 072-463-1756

◇ 集会の案内

〈公開講演会「大豆のはたらき in 大阪—文化・資源・健康から見た役割—」のお知らせ〉

公益財団法人不二たん白質研究振興財団は、本年も「大豆のはたらき in 大阪—文化・資源・健康から見た役割—」と題して、大阪市内にて公開講演会を開催いたします。ふるってご来場ください。

1. 日時:平成24年10月4日(木)午後2時~4時50分
2. 場所:〒530-0005 大阪市北区中之島5丁目3-51 大阪国際会議場12F 特別会議場
3. 講演内容 ①大豆の加工と日本人の知恵 東京農学大学名誉教授 小泉武夫 ②世界の食料問題と大豆の役割 (独)国際農林水産業研究センター理事長 岩永勝 ③日本人の健康と肥満 大阪大学大学院医学研究科教授 下村伊一郎
4. 運営委員長 住友病院院長 松澤佑次
5. 申し込み 先着400名. 聴講無料. 申込み締切り9月27日. Fax, E-mail, 郵送にて受付.
6. 後援・協賛 (社)栄養改善普及会 日本育種学会 (公社)日本栄養・食糧学会 (NPO)日本栄養改善学会 (社)日本栄養士会 (社)日本家政学会 (社)日本食品科学工学会 (社)日本植物蛋白食品協会 (社)日本調理科学会 (公社)日本農芸化学会 日本臨床栄養学会
7. 問い合わせ・申込み先 不二たん白質研究振興財団 事務局 担当:上田, 高松 〒598-8540 大阪府泉佐野市住吉町1番地 不二製油株式会社内 Tel. 072-463-1764 / Fax. 072-463-1756 専用 E-mail kouen@so.fujioil.co.jp

〈第7回高崎量子応用研究シンポジウムのお知らせ〉

日本原子力研究開発機構 高崎量子応用研究所では、「第7回高崎量子応用研究シンポジウム」を下記の日程で開催する運びとなりました。プログラム等の詳細は、http://www.nacos.com/jsb/02/02PDF/7th_takasaki_program.pdfを御覧いただきますようお願い申し上げます。

- ・名称:第7回高崎量子応用研究シンポジウム
- ・会期:平成24年10月11日(木)・12日(金)
- ・場所:高崎シティギャラリー コアホール(群馬県高崎市高松町35-1)
- ・参加費:無料・参加申込先:(申込書をFax又はE-mailにて送付)

独立行政法人 日本原子力研究開発機構 高崎量子応用研究所 放射線高度利用施設部 第7回高崎量子応用研究シンポジウム実行委員会事務局 Fax. 027-346-9690 又はE-mail: taka-sympo@jaea.go.jp

〈国際シンポジウム「Comparative Genomics and Breeding of Brassicaceae Crops」開催〉

ダイコンゲノム研究プロジェクトーシンポジウム実行

委員会主催, 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センター共催により上記シンポジウムを平成24年10月11日に開催します。詳細と参加事前登録につきましては、ホームページ(<http://www.agri.tohoku.ac.jp/pbreed/CGBBC-sympo.html>)をご覧ください。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

主催:ダイコンゲノム研究プロジェクトーシンポジウム実行委員会

問い合わせ先:仙台市青葉区堤通雨宮町1-1 東北大学農学研究科 北柴, 大泰 Tel. 022-717-8651

日本育種学会会員異動(2012.4.21 ~ 2012.7.20)

◇ 普通会員入会:王春雷(宮城), 伊原徳子, 小郷裕子(茨城), 李偉強(東京), 土田博子(神奈川), 中野絢菜, 中谷明弘(新潟), 古川浩二(山梨), 神沼英里(静岡), 寿崎拓哉(愛知), 金子聡子(京都), 木下哲(奈良), 松村尚和(佐賀)

◇ 学生会員入会:香月遼, 小林秀樹, 小林幹仙, 徐美蘭, 土屋真弓(北海道), 川又奨, 北條初音(青森), 五十嵐圭介, 金澤弘晃, 藤井慎也(宮城), 榎裕太郎(山形), CHUSREEAEOM KATARUT(茨城), 加藤舞子, 菅野寛人(栃木), 加藤さやか, 山下達生(千葉), 丁承強, 小野木章雄, 柏木めぐみ, 楠田弘毅, 杉山郁也, 高橋徳, 山崎諒(東京), 安藤満里奈, 櫻井徳康, 浜田翔太, 三浦麻友子, 本島ゆか(神奈川), 佐藤祐也(新潟), 西浦愛子(福井), 柴田恭佑(愛知), 友員正博, 橋本翔(三重), 浅野有紀子(滋賀), 坂口豊隆, 平松紘美, 渡邊将太(京都), 静貴子, 廣田智子, PHAN THI THANH, 四元達也(兵庫), 花川容子(鳥取), 向成洋平(広島)

住所変更等

◇ 普通会員:品田裕二(北海道), 松田長生(岩手), 中川仁, YANORIA MARY JEANIE(茨城), 大石英樹(群馬), 高師知紀(千葉), 佐々木忠将, 三科興平(神奈川), 吉秋斎(石川), 吉田朋史(愛知), 荒木良一(京都), 門田有希(岡山), 中込弘二(広島), 井上敬, 岩淵哲也, 佐伯由美, 山口修(福岡)

◇ 逝去

瀧之上康元(東京)

慎んでご冥福をお祈りいたします。